

妊婦の妊娠に対する取り組みの姿勢

○本多あんり（高知赤十字病院）吉本 妙・北村亜希子（国立高知病院）
 真野晴江・北村明子（高知市民病院）有光由美・矢田典子（安芸病院）
 岡田順子（西南病院）近藤ひろ美（仁淀病院）大塚多賀子（高知県立中央病院）
 尾崎暢希・岸田佐智（高知女子大学）

I. はじめに

妊娠分娩育児は生理的現象といえども、妊婦に生理的・心理的・社会的に多様な変化をもたらす。現在の妊婦たちは、少子化や情報の氾濫、核家族化によるサポート源の減少という環境の変化の中で、妊娠期に生じる出来事をどの様に感じ、どのように取り組んでいるのであろうか？看護者の提供している教育プログラムや保健指導の状況はよく報告がなされているが、現在のストレス対応に弱いとされる妊婦たちの現状を明らかにしている文献はみあたらなかった。そこで、妊婦が妊娠に対してどのように取り組んでいるのかを明らかにすることで、妊婦に対する新たな看護介入の方法を知る手がかりになると考えた。

目的：妊婦の妊娠に対する取り組みの姿勢を明らかにする。

II. 本研究の概念枠組み

本研究の概念枠組みは「妊娠」「分娩」「育児」についての文献から、取り組みの姿勢に関連すると思われる項目を抽出分析し作成した。本研究での、「妊婦の取り組みの姿勢」とは、その人が妊娠したことによって生じた状況や将来生じる状況に対して、自らの意識や意図から何か行動しようとしていることと考える。これには、妊娠、出産、育児に向けて自己調整しながら行動し体験の意味を見いだす過程と、周囲に期待することがあり、「主体性を持つ」「計画性を持つ」「心の調整をする」「知識をもつ」「行動に移す」「体験の意味を見出す」「期待する」の7要素からなる。このような体験を通して妊婦の満足感に影響を与え、結果として母親の成長がある。また「現代妊婦の風潮」は取り組みの姿勢に影響を及ぼすものである。

III. 方法

対象：本研究の協力に同意した妊娠26週から36週の妊婦21名

データ収集期間：平成9年4月～平成9年10月

データ収集方法：半構成的インタビューガイドに基づいて30～60分の面接調査をした。

分析方法：面接をテープにとり、得られた情報を逐語的に文章にした。それをデータとして、妊娠に対する取り組みに関連した現象を抽出し、KJ法による分類を行った。

IV. 結果および考察

1) 対象者の属性；対象の年齢は22才から38才で平均29.6才であった。妊娠週数は24週から36週、初産婦10名経産婦11名であった。職業に関しては、無職が10名また医療関係者が6名いた。

2) 妊婦の取り組みの姿勢；妊婦は妊娠によって生じる取り組まなければならない出来事に対して、12の取り組みをしていた。

- ①【状況を分析する】今自分に何が起きているのか、将来どのような状況になるのかなど、状況を分析していくことである。
- ②【状況をありのままに受け入れる】妊娠し分娩に向かう中で、生じる様々な出来事や変化に関して、自らが積極的に行動をするわけではなく、ありのままの出来事として捉え、それを受け容れたり楽しんだりしている。
- ③【生活の改善を図る】これは妊娠したことによって、よりよい生活を送ろうとしたり、負担がかからないように今までとは生活上の手段を変えることで、生活を改善しようとする事である。

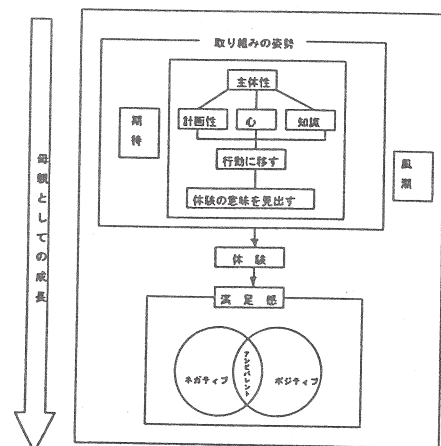


図1 本研究の概念枠組み

- ④【将来に向けて準備する】これは妊娠・出産・育児の事を考え準備していく行動のことで、覚悟をする・実践する・準備するなどがある。例えば妊娠・出産・育児に対しての心がまえを持つことで心の準備をしたり、母親学級を受講し呼吸法を行い実践するなどがあつた。
- ⑤【知識を広める】これは専門書・親族・知人・専門家などから妊娠・出産・育児に関する情報を得たり、相談をしたり、参考にしたりしていく行動である。妊婦は超音波診断や自らが本を読んだり、人の話を情報を得る事により状況を把握したり、身体的不安や健診費用等妊娠に関しての問題に対して専門家に相談したり、また様々な情報から妊娠・出産・育児の準備をする時の足しにしている。
- ⑥【自分や胎児をいたわる】これは、妊娠中に起こる身体的な変化に伴い、負担がかからないように、また異常を予防するために、自分自身や胎児をいたわろうとする行動である。
- ⑦【情緒の安定を図る】これは妊婦が妊娠経過・家族関係また妊娠による生活の変化によって精神的に負担な状況に置かれても、気持ちの切り替えを行なう・自分を励ます・自分に言い聞かせるなどの行動を行なっていく事である。例えば、イライラしてもしょうがないからと、気持ちの切り替えを行っていた。
- ⑧【自分の思いを大切にする】何らかの問題や分娩に関して、誰かに頼ることなく自分の力を信じ、その力を活用してさまざまな出来事を乗り越えようとする事である。例えば、妊娠中であっても、結婚式を挙げたい、新婚旅行にも行きたいという自分の思いを貫き、行動したり、体重コントロールについて理解していながらも、自分の欲求のまま食事を取るというケースがあつた。
- ⑨【他者を巻き込む】これは夫・両親・知人・医療スタッフなどの他者を利用したり、また指示・教育・説得していく行動である。また、妊娠中に特有である、妊娠や分娩の体験を共有したいなどといった行動もみられた。指示や教育は主に夫に対して行なわれ、分娩時の不在に対しての準備として行なわれているケースがあつた。
- ⑩【周囲に気を配る】これは夫や上の子・親族に対して精神的負担を与えないように、自分に生じている出来事を報告したり、感謝の気持ちを表すなどの、周囲に気遣う行動である。例えば、両親に妊娠したことを報告する時期を考慮したり、妊娠によって生じるであろう上の子の精神的変化に応じた対応を考えていた。
- ⑪【状況や他者の思いを優先する】自分には何らかの思いがあるにも関わらず、それよりも他者の意見を優先して受け入れる姿勢である。これには、ただ自分では何も行動しないで他者に期待するのみというケースや自分の思うようにできない状況を仕方ないとあきらめながらも受け入れようとしている。
- ⑫【何もできない】妊婦によって計画外の妊娠や妊娠による体の変化や育児のイメージ化がでず、戸惑いを感じたり、自己が受け入れられない助言に対してストレスを感じるがそのことに対して何も対応できない精神的状況から抜けだせない場合である。

V. まとめ

以上のように妊婦は妊娠中に様々な取り組みを行っていることが分かった。今後さらに分析を進め、マタニティサイクルにある女性の取り組みの姿勢に関する構造やパターンを明らかにし、適切な看護介入を検討していきたい。

表2 妊婦の妊娠によって生じる出来事への取り組みの姿勢

状況を分析する	事実を明らかにする 過去の体験と比較する 他者と比較する 分析する 予測する 計画を立て、目標を持つ	情緒の安定を図る	気持ちの切り替えをする 自分に言い聞かせる 閉じこもる 息遣いをこぼす
状況をありのままに受け入れる	今まで通りにする 行かなくなると考える 受け入れる 正常性を願う 利点をさがす 状況を素しむ	自分の思いを大切に	待つ 欲求に任せる こだわる 気にかける 思いを貫く 自分の方で解決する
生活の改善を図る	調整する 工夫する 今までの生活を改める	他者を巻き込む	他者を利用する 他者を指示する 他者を教育する 服従する
将来に向けて準備する	分娩に向けて準備する 実践に移す 心構えをする	周囲に気を配る	他者を配慮する 報告する 感謝する
知識を広める	情報を得る 相談する 参考に	状況や他者の思いを優先する	我慢する あきらめる 言いなりになる 他者に期待する
自分や胎児をいたわる	無理をしない 慎重になる 制限する 避ける	何もできない	戸惑う 対応できない 現実とのギャップを感じる